

## 20代～40代の男女700人に聞く、「金銭管理調査」 消費税増税目前、決済方法も金銭管理も デジタルな手法へのニーズが高まる。

**理想の金銭管理ツールに近い最適な決済ツールは、Visa デビット。**

ビザ・ワールドワイド(以下 Visa、代表取締役:岡本和彦、所在地:東京都千代田区)は、2014年2月、楽天リサーチ株式会社に委託し、20代～40代の男女700人を対象に、金銭管理についての実態調査を実施しました。

アナログからデジタルへ。今回の調査によってモバイル端末の普及でいつでも、どこでもネットにつながる環境が当たり前になりつつある今日、決済方法も金銭管理もデジタルな方法へのニーズが高まっている実態が浮き彫りになりました。

現代日本人は様々な金銭管理方法を活用していますが、「通帳の確認」などアナログでの管理が中心であることが分かりました。また、増税対策として節約志向が高まる中、電子決済の利用意向が15ポイント以上伸びるなど、デジタルツールで決済することへのニーズが高まりつつあることも結果から読み取れます。その理由として、「ポイントやマイルなどがつく」(65.6%)、「現金が手元になくても使える」(53.7%)、「大金を持ち歩く必要がない」(42.1%)、「小銭をじゃらじゃら持たずに済む」(35.0%)など、現金の短所を補う点が支持されています。また、理想の金銭管理ツールの条件として、「出費の内容をすぐ確認できる」「自分で収支の記録をしなくていい」「使いすぎを防げるもの」などがあげられ、Visa デビットのもつ機能と上位5件中4件が重なることがわかりました。理想の金銭管理に最適な決済ツールにもなり、現金のように使える電子決済の Visa デビットは、機能について理解すると、利用意向が高まることが分かりました。また、子供に持たせたいカードの条件にも合致し、お金の管理を学ぶツールとして、若いうちから持たせるにも最適です。

今回の調査結果について、ファイナンシャルプランナーの山口京子さんは、「増税後は、今までと同じ暮らしをしていても、お金が減るので「節約志向」や「ちゃんとお金の管理をしなければ」と思うのも必然でしょう。ところが現状は、みなさん家計簿に挫折したり、ついお金を使いすぎてしまったり、金銭管理に成功しているとは言いがたいようです。その原因の一つは「現金」を使えば、お金は管理できるという思い込みにあります。大切なのは、自分が今いくら使えるのかを把握することです。お買い物に Visa デビットを使うと、即時決済され預金残高に反映されます。口座残高までしかお金が使えませんから、管理が容易です。利用履歴が家計簿代わりになるので、インターネットで見れば、「今いくら使えるか」一目瞭然。あわてて時間外に現金を下ろさなくても、Visa が使えるお店で支払いに使えば ATM 利用手数料も節約できます。Visa デビットカードは、金銭管理成功への近道と言えます。」とコメントしています。

###

### ビザ・ワールドワイドについて

ビザ・ワールドワイド(以下、Visa)は、世界規模のペイメントテクノロジーを提供する企業です。世界の200以上の国と地域において、現金・小切手の代わりに電子通貨を利用することを可能にし、消費者、企業、金融機関、政府機関を結ぶ役割を果たしています。毎秒47,000件を超す取引を処理できる VisaNet は世界でも最先端の情報処理ネットワークで、電子通貨の基盤であると同時に、消費者を詐欺や不正行為から守り、加盟店への確実な支払いを可能にしています。Visa の事業の特色として、カード発行、融資、会費や利息の設定を消費者に直接行わないことが挙げられます。Visa は取引先金融機関を通じて、デビットカードによる即時決済、プリペイドカードによる事前決済、クレジットカードによる事後決済といった多彩な選択肢を提供しています。詳しくは [www.corporate.visa.com](http://www.corporate.visa.com)(英語サイト)または [www.visa.co.jp](http://www.visa.co.jp)(日本語サイト)をご覧ください。

### 本件に関するお問い合わせ先

Visa デビット広報事務局: 株式会社電通パブリックリレーションズ  
担当: 上村一郎、和田朋子 Tel:03-5565-6057

## <調査概要>

- 実施時期 2014年2月28日(金)～3月3日(月)
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 20代～40代の男女700名  
うち専業主婦300名(年代別均等割付) / 有職男女300名(性年代別均等割付)  
ひとり暮らし大学生100名(性別均等割付)
- 調査地域 全国

### ■調査結果概要

#### ★金銭管理はアナログ中心の日本人。家計簿に約半数が挫折するなど、上手くいっていない。

まず、20代～40代の男女700名(専業主婦300名、有職男性150名、有職女性150名、ひとり暮らし大学生100名)を対象に、自分のお金の収支管理実態について詳しく聞きました。すると、「銀行口座の通帳などで確認」(43.1%)、「財布の中の現金で確認」(29.9%)などアナログな方法で金銭管理をしています。しかし、家計簿などでの収支管理記録にも51.1%が「挫折経験あり」と上手くいっていません。

#### ★消費税増税で、主に節約して乗り越えたい意向。特に現金決済の短所を補う電子決済の利用意向が高まる。

消費税増税対策としては76.6%が「出費の見直し・節約」を志向しており、増税後は、主に節約して乗り越えたい、という意向が読み取れます。決済方法としても、現在よく利用するのは「現金」(73.1%)ですが、今後は「電子決済」(43.9%)が利用意向を伸ばしています。電子決済は、「ポイントやマイルなどがつく」(65.6%)、「現金が手元になくても使える」(53.7%)、「大金を持ち歩く必要がない」(42.1%)、「小銭をじゃらじゃら持たずに済む」(35.0%)など、現金の短所を補う点が支持されています。

#### ★理想の金銭管理ツールの条件、上位5件中4件に合致する決済ツールはVisa デビット。

では、具体的にどのような金銭管理ツールが求められているのでしょうか。「収入・支出が一括で管理できる」(82.4%)、「信頼できる会社のもの」(81.6%)、「出費をしたらすぐにその内容を確認できる」(79.3%)、「自分で収入や支出の詳細を記録しなくていい」(71.3%)、「スマートに使えるもの」(69.1%)、「使いすぎを防げるもの」(63.6%)、「スマートフォンやタブレットなどから利用できるもの」(59.9%)という条件があげられました。

この、理想の決済ツールの条件上位5件中4件に合致するものに、Visa デビットがあります。Visa デビットは、Visa マークのある加盟店で、クレジットカードと同じ手順で利用できるデビットカードです。加盟店であれば24時間、海外でも、インターネット決済でも利用できます。利用通知がスピーディにメールで届き、オンライン明細で支出の管理が可能。カードで支払い、直接銀行口座から引き落とされるため、ATM手数料もかかりません。Visa デビットの認知率は43.3%ですが、特徴を知ったあとVisa デビットを利用したいと答えた人は52.0%と上昇しました。

#### ★Visa デビットは子供に金銭管理能力を身につけさせるツールとしても最適と評価。

Visa デビットは自分だけでなく、子供に持たせるカードとしても最適だと思われています。子供にどんな決済ツールを持たせたいかと聞くと、「なくしたときに保護される」(86.9%)、「入会金や年会費が安い・無料」(85.9%)、「ポイントやマイルがよくたまる」(83.7%)、「決まった金額以上は使えない」(80.3%)などが上位にあげられ、これらはVisa デビットの機能にほぼ合致しました(上位5件中3件)。これらのことから、Visa デビットは、金銭管理能力を身につけるツールとして、最適と言えます。



愛知県名古屋市出身 金城学院大学卒業。大学在学中から、テレビ、ラジオに出演。新婚当初は世帯年収200万円台が、庭付き一戸建てを購入、2年で完済できるお金を貯めた。  
資格:ファイナンシャルプランナー、証券外務員、生命保険募集人、変額保険販売資格、損害保険募集人  
出演・執筆・取材協力:TBS テレビ「がっちりアカデミー」、フジテレビ「その顔が見てみたい」、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」、テレビ朝日「スーパー」チャンネル、日本テレビ「THE ワイド」、日経新聞、産経新聞、朝日新聞、他多数。

## 20代～40代の金銭管理実態

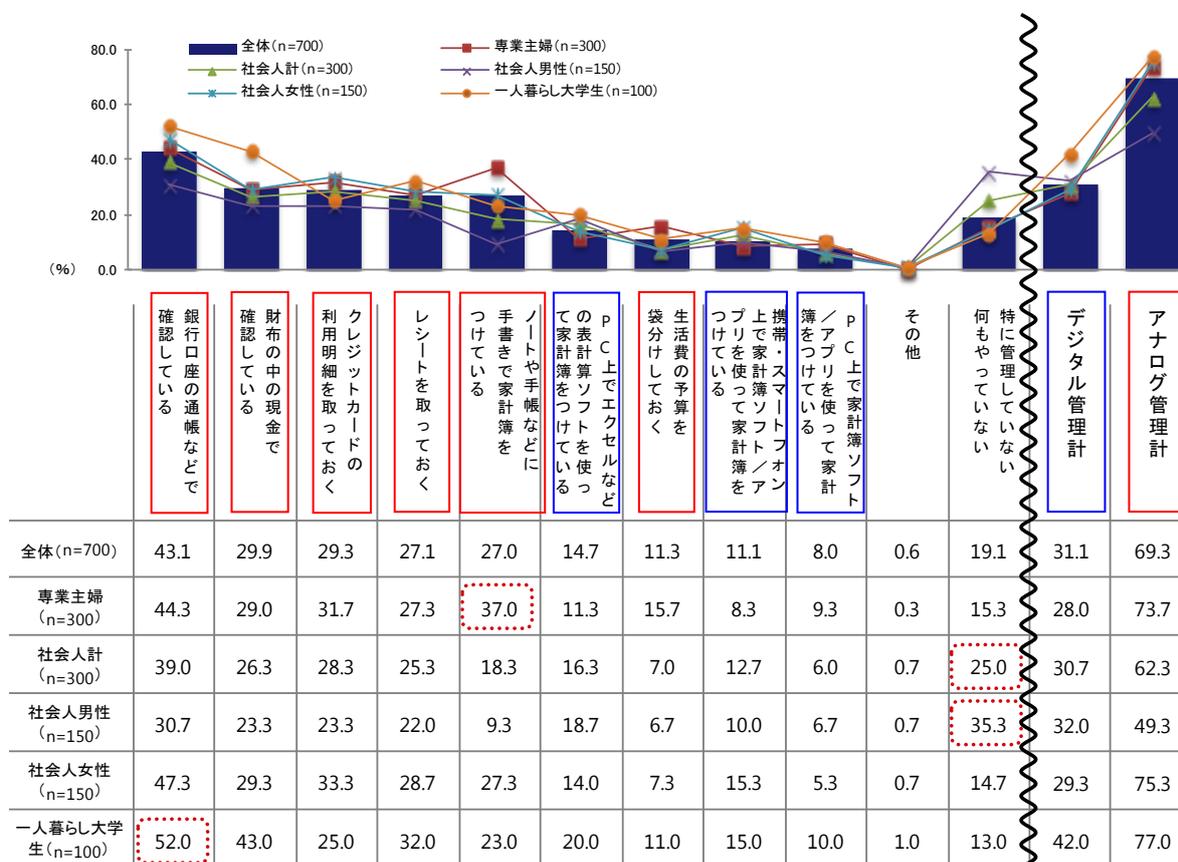
現代日本人は、収支は「銀行口座の通帳で確認」、「財布の中の現金で確認」などアナログ方法中心で管理している。アナログ派は69.3%。

まず、20代～40代の男女700名（専業主婦300名、有職男性150名、有職女性150名、ひとり暮らし大学生100名）を対象に、自分のお金の収支管理実態について聞いてみました。

収支管理の方法は、「銀行口座の通帳などで確認」(43.1%)が最も多く、次いで「財布の中の現金で確認」(29.9%)、「クレジットカードの利用明細を取っておく」(29.3%)、「レシートを取っておく」(27.1%)、「ノートや手帳などに手書きで家計簿をつけている」(27.0%)の順で、アナログでの管理が中心。属性別にみると、専業主婦の37.0%が「家計簿」を利用し、ひとり暮らしの大学生の過半数(52.0%)が「銀行口座の通帳」で管理するなど、それぞれ特徴があります。なお、社会人の4人に1人(25.0%)は「特に管理していない・何もやっていない」状況で、特に男性社会人は3人に1人(35.3%)が何も管理していません。

金銭管理方法をアナログ、デジタルに分けてみたところ、「銀行口座の通帳などで確認している」、「財布の中の現金で確認している」、「クレジットカードの利用明細を取っておく」、「レシートを取っておく」、「ノートや手帳などに手書きで家計簿をつけている」、「生活費の予算を袋分けしている」などのアナログ管理は69.3%、「PC上でエクセルなどの表計算ソフトを使って家計簿をつけている」、「携帯・スマートフォン上で家計簿ソフト／アプリを使って家計簿をつけている」、「PC上で家計簿ソフト／アプリを使って家計簿をつけている」などのデジタル管理は31.1%と、圧倒的にアナログでの管理が多くなりました。[グラフ1]。

[グラフ1]金銭管理方法(複数回答)

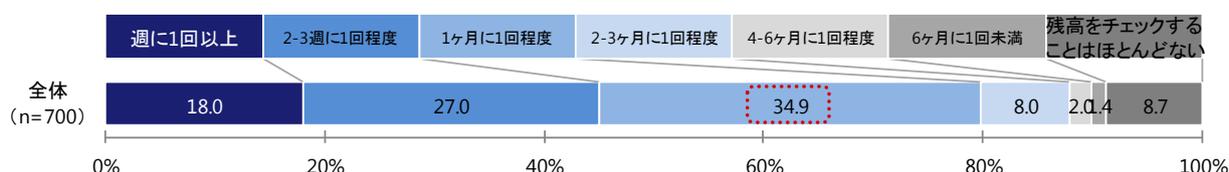


## 20代～40代の金銭管理実態

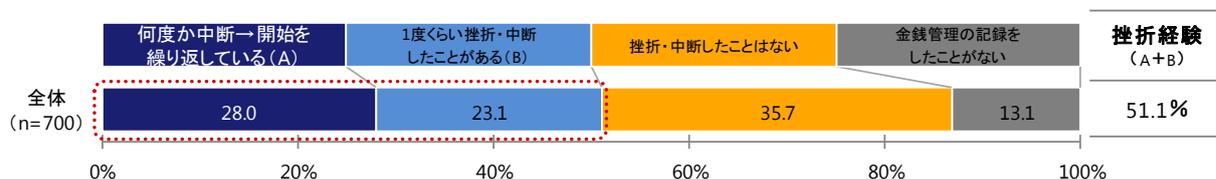
銀行口座の確認は「1ヶ月に1回程度」が最多。家計簿などでの収支管理記録には51.1%が「挫折経験あり」。85.4%が「もっと積極的に管理したい」と反省。

金銭管理手法として最も実践度が高かった預貯金の残高の確認について、どのくらいの頻度でチェックするか聞くと、「1ヶ月に1回程度」(34.9%)が最多です[グラフ2]。収支管理の方法で上位にあがった、家計簿などで金銭の記録について、挫折や中断をしたことがあるか聞くと、「挫折・中断したことはない」人が35.7%ですが、「何度か中断・開始を繰り返している」「一度くらい挫折・中断したことがある」を合わせ、半数以上(51.1%)が挫折経験者となり、「金銭管理の記録をしたことがない」(13.1%)も1割を超えました[グラフ3]。金銭管理として色々なことを行っているものの、十分にはできていないようです。

[グラフ2] 銀行の預貯金残高のチェック頻度

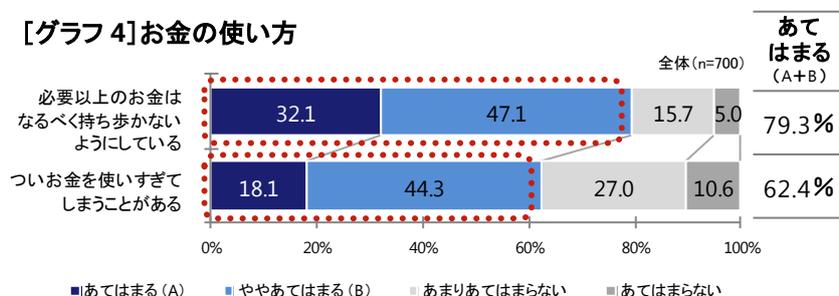


[グラフ3] 自分のお金の管理記録の経験



お金の使い方についての意識を聞くと、約8割(79.3%)が「必要以上のお金はなるべく持ち歩かないようにしている」ものの、6割が「ついお金を使いすぎてしまうことがある」(62.4%)と反省しています[グラフ4]。そのため、金銭管理をしている人(566人)を対象に、自分の金銭管理状況を100点満点で自己採点してもらったところ、全体平均は64.0点[表1]。8割以上(85.4%)が「今後もっと積極的に金銭管理に取り組みたい」と考えています[グラフ5]。

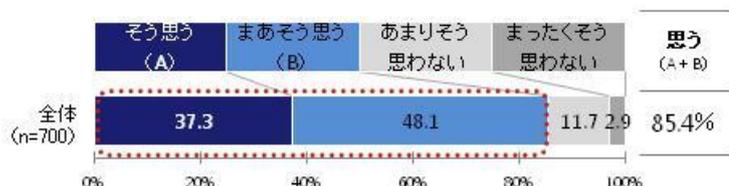
[グラフ4] お金の使い方



[表1] 自分の金銭管理の自己採点

	平均点
全体(n=700)	64.0点
専業主婦(n=300)	63.9点
社会人計(n=300)	63.2点
社会人男性(n=150)	62.4点
社会人女性(n=150)	63.8点
一人暮らし大学生(n=100)	66.6点

[グラフ5] 金銭管理をもっと積極的にしたいか

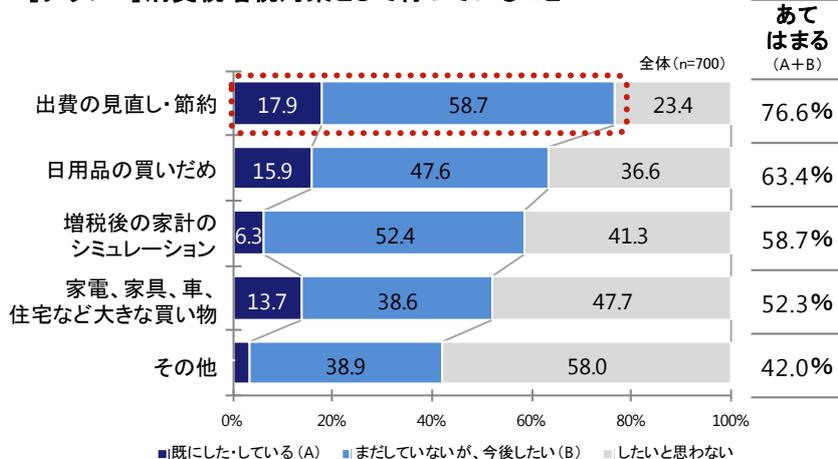


## 消費税増税と金銭管理意識

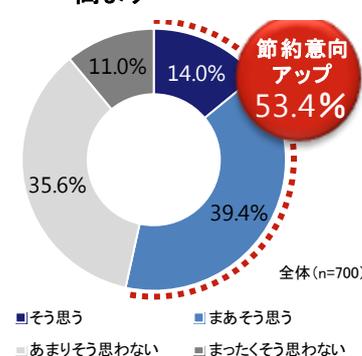
消費税増税対策としては約 8 割(76.6%)が「出費の見直し・節約」を志向。増税に向け節約志向が大きく高まる(53.4%)。増税後、一番支出をやめたいのは「ATM などの手数料」。

この 4 月 1 日から消費税が 8%へ引き上げられますが、増税対策についてしていること・今後したいことを聞くと、「出費の見直し・節約」(76.6%)をあげる人が最多[グラフ 5]、増税に向けた節約志向の変化を聞いても、53.4%が節約意識が「以前より高まった」と回答しています[グラフ 6]。増税は主に節約して乗り越えたい、という意向が読み取れます。

[グラフ 6] 消費税増税対策として行っていること

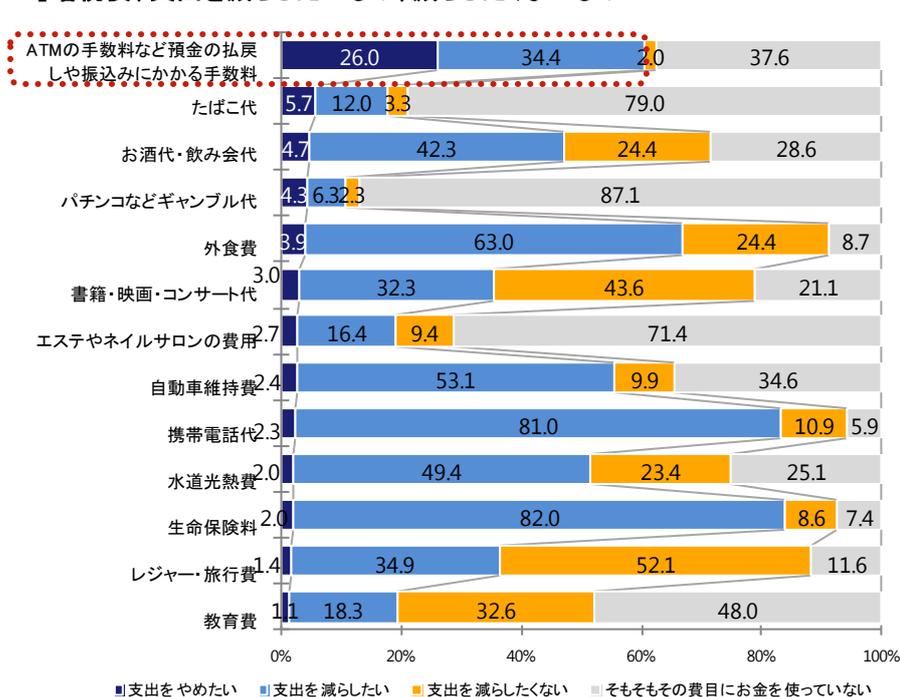


[グラフ 7] 増税に向けた節約志向の高まり



増税後の支出について、支出を「やめたい」もの第 1 位は「ATM の手数料など預金の払い戻しや振り込みにかかる手数料」で、26.0%が「やめたい」と回答しています。「支出を減らしたい」人は 34.4%です。逆に、増税後も支出を「減らしたくない」のは「レジャー・旅行費」(52.1%)、「書籍・映画・コンサート代」(43.6%)、「教育費」(32.6%)などでした[グラフ 8]。

[グラフ 8] 増税後、支出を減らしたいもの、減らしたくないもの



## お金の決済方法

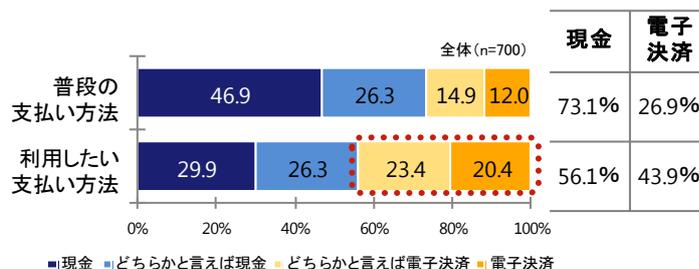
よく利用するのは現金払いだが、「持ち歩くのが不安」「引き落とすのが面倒」と、不満は少なくない。そのためか、電子決済の利用意向が高まりつつある。

金銭管理意向は強いのに、あまりきちんと管理できていない現代日本人。普段の支払い方法について聞くと、よく使う支払方法は「現金」(73.1%)です[グラフ9]。

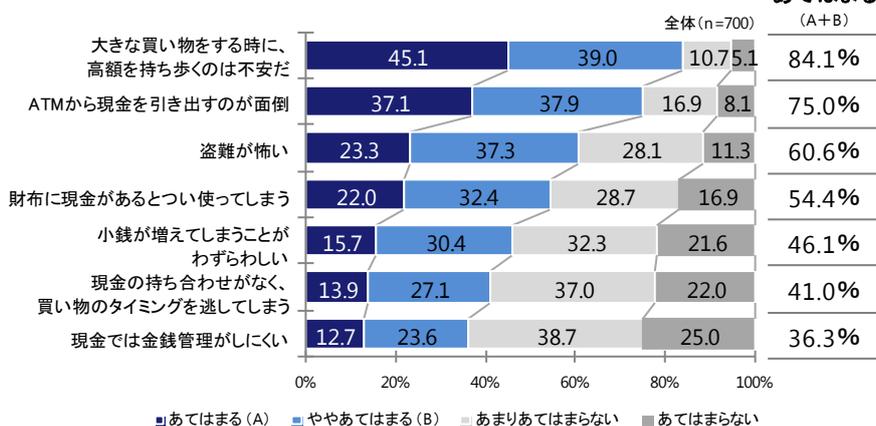
しかし、現金で買い物することについてどう思うかを聞くと、「大きな買い物をする時に、高額を持ち歩くのが面倒」(75.0%)、「盗難が怖い」(60.6%)など、現金故の不安や面倒さに不満を感じていることがわかります。また、「財布に現金があるとつい使ってしまう」(54.4%)ことも多く、せっかく節約しようと思ったのに挫折、という苦い経験も多いようです[グラフ10]。日常の買い物で現金で支払う金額を聞くと、「1,001円～5,000円」(40.1%)が最も多く、5,000円以下の買い物には60.1%が現金を使うと答えています[グラフ11]。そのせいか、現金での買い物は、「小銭が増えてしまうことがあり、わずらわしい」(46.1%)と感じる人も少なくないようです[グラフ10]。

現金を持ち歩いたり支払ったりすることについては心理的な不安や不満に加え、見た目のスマートさに欠けることから、今後使いたい決済手法としては、電子決済が43.9%と、現在の利用率(26.9%)から数字を伸ばしています[グラフ9]。

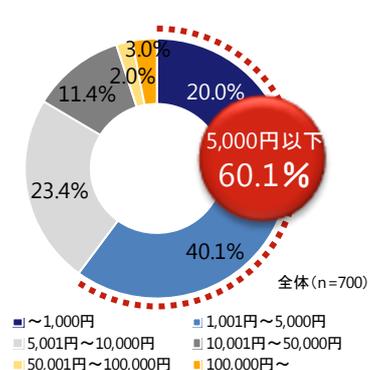
[グラフ9] 利用する支払方法と利用したい支払方法



[グラフ10] 現金の持ち歩きや現金での買い物について

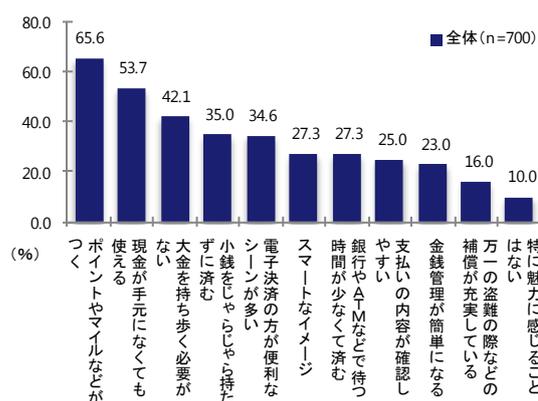


[グラフ11] 現金での支払い金額



利用意向の高い「電子決済」について、さらに詳しく聞いてみました。魅力を感じるポイントを知ると「ポイントやマイルなどがつく」(65.6%)、「現金が手元になくても使える」(53.7%)、「大金を持ち歩く必要がない」(42.1%)、「小銭をじゃらじゃら持たずに済む」(35.0%)が上位にあげられています。大金を持ち歩く不安や小銭をもつカッコ悪さなど、現金の短所を補う点が支持されているようです[グラフ12]。

[グラフ12] 電子決済の魅力



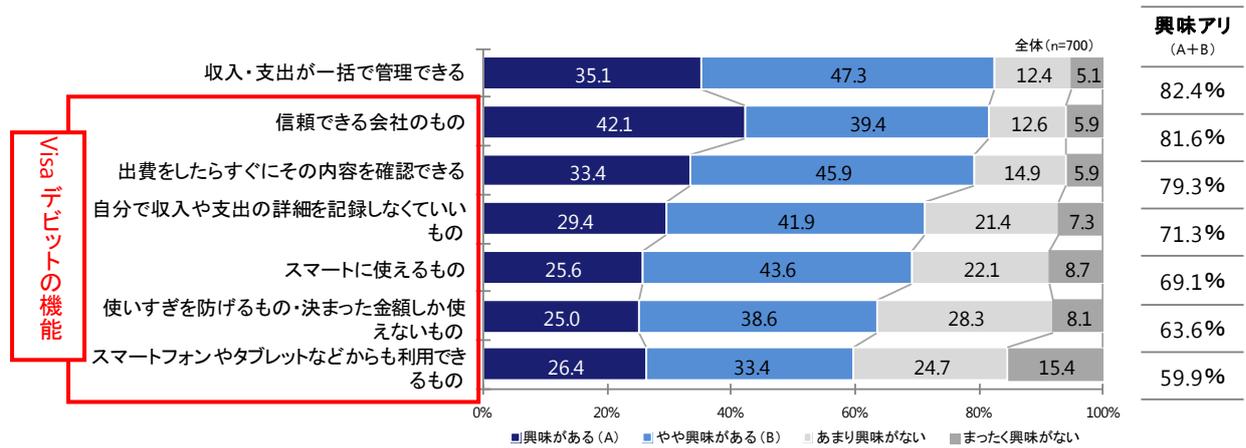
## 理想の金銭管理ツール

理想の金銭管理ツールは、「収支が一括で管理できる」(82.4%)、「信頼できる会社の」(81.6%)、「出費の内容をすぐ確認できる」(79.3%)、「自分で収支の記録しなくていい」(71.3%)もの。

電子決済への利用意向が高まっているようですが、どのような金銭管理ツールに魅力を感じるか聞くと、「収入・支出が一括で管理できる」(82.4%)、「信頼できる会社のもの」(81.6%)、「出費をしたらすぐにその内容を確認できる」(79.3%)、「自分で収入や支出の詳細を記録しなくていい」(71.3%)、「スマートに使える」(69.1%)、「使いすぎを防げるもの」(63.6%)、「スマートフォンやタブレットなどから利用できるもの」(59.9%)などの条件があげられました[グラフ 13]

なお、これらの条件とほぼ合致した最適な決済ツールとして、Visa デビットがあり、上位 5 件中 4 件、全 7 件中 6 件の条件を満たしています。

[グラフ 13] どのような金銭管理ツールに興味があるか



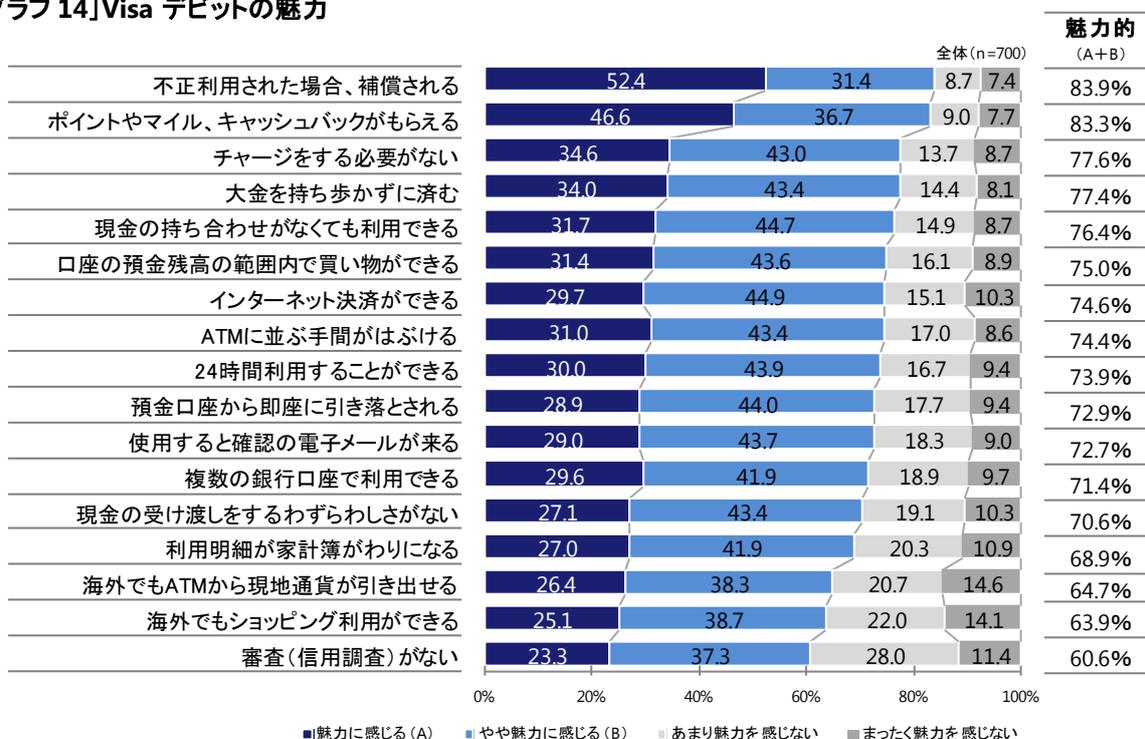
## 理想の金銭管理に最適な決済ツール Visa デビットについて

理想の金銭管理が可能な決済ツール Visa デビットは、機能を知ると利用意向が急増。特に主婦や学生から高い支持が。

Visa デビットは、Visa マークのある加盟店で、クレジットカードと同じ手順で利用できるデビットカードです。加盟店であれば 24 時間、海外でも、インターネット決済でも利用できます。利用通知がスピーディにメールで届き、オンライン明細で支出の管理が可能。カードで支払い、直接銀行口座から引き落とされるため、ATM 手数料もかかりません。

Visa デビットの特徴をあげ感想を聞くと、すべての特徴に対し 6 割以上が魅力的だと答えています。特に「不正利用された場合、補償される」(83.9%)、「ポイントやマイル、キャッシュバックがもらえる」(83.3%)、「チャージをする必要がない」(77.6%)といった点に強く魅力を感じています[グラフ 14]。

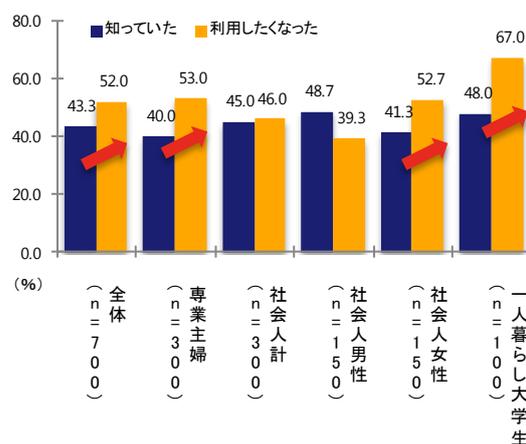
[グラフ 14] Visa デビットの魅力



Visa デビットの認知率は 43.3%ですが、上記の特徴を知ったあと Visa デビットを利用したいと答えた人は 52.0%へととなっています。

特に、ひとり暮らしの大学生(48.0%→67.0% + 19.0 ポイント)や専業主婦(40.0%→53.0% + 13.0 ポイント)からの支持がより高くなっています[グラフ 15]。

[グラフ 15] Visa デビット認知率と利用意向



## 子供に持たせたいカード

子供に持たせたいのは、「紛失時の補償があり」「安く・無料で作れ」、「決まった金額しか使えない」もの。Visa デビットが子供にも持たせる決済ツールとしても最適なことが明らかに。

次世代を担う子供達。自分の子供にどんな決済ツールを持たせたいかと聞くと、「なくしたときに保護される」(86.9%)、「入会金や年会費が安い・無料」(85.9%)、「ポイントやマイルがよくたまる」(83.7%)、「決まった金額以上は使えない」(80.3%)、「家族割引がある」(80.1%)が上位にあげられました[グラフ 16]。

上位 5 件中 3 件が Visa デビットの機能に合致しています(全 14 件中 11 件)。このことから、決まった金額以上は使えない Visa デビットは、子供の金銭管理能力を身につけるツールとして最適なものの一つと言えます。

[グラフ 16] 自分の子供に持たせたいカードの条件

